

## 米寿の祝い

野瀬隆平

私の誕生日は 5 月 17 日である。先月、ついに 88 歳になった。米寿である。

子供や孫たちが米寿を祝う会を盛大に行ってくれた。場所は郊外にあるイタリアン・レストラン。人気のある店で、遠方からも車を走らせて来る客もあり、なかなか予約が取れないという。娘がなんとか席を確保してくれた。

当日、丁度 8 名用の個室に案内された。テーブルには、すでにカトラリーがセットされており、メニューが添えられている。料理の選択肢が多く、何を選べばよいのか迷いそうである。

やがて、係の女性が現れ注文を取るといふ。いやいや、全員が料理を決めるには時間がかりそうだ。そこで、先ずは乾杯してからゆつくりと料理の説明を聴いて決めることにした。シャンペンでも思っていたら、お勧めのスパークリング・ワインがあるという。呑んだことの無い銘柄だが、試してみることにした。

さて、宴会もたけなわ、子や孫たちがそれぞれにお祝いの品を贈ってくれることになった。特に印象に残ったのは、息子からのプレゼントだ。桐の箱に収まっている。何かと思って開けて見ると、日本酒のボトル一本が現れた。ラベルには大きく「野瀬隆平」と黒々と毛筆体で書かれているではないか。本来ならば、銘柄が書かれている所だ。その右上には「祝米寿」と朱色で書いてある。よく見ると、新潟の「今代司(いまよつかさ) 酒造の金箔入り純米酒である。

興味深いのは、ボトルに添えられているものだ。私が生まれた昭和十三年五月十七日付け「讀賣新聞」のコピーである。一面のトップに「徐州戦線全面的に崩壊」と右から左への横書きの大きな見出しがあり、蒋介石が徐州大会戦での全面的敗北を認め、総退却を命じたと報じている。そういうえば、この年の四月一日には国家総動員法が成立し、いよいよ日本が怪しげになってきた時代である。

さて、この貴重な一本いつ開けようか。考えた末、贈り主である息子夫婦を自宅に招いて、夕食を共にしながらという事にした。

